

授業科目 (科目ID)	情報科学Ⅱ		担当教員 (実務経験)	笹谷 純代 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> IT講習、雇用促進等のインストラクターとして20年以上に わたり従事		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	この授業は、本校における学習に必要な、情報リテラシーと Microsoft Word、Excel、PowerPointの操作方法を身につけることを目的とする。また、社会生活において必要となる、情報やデータの処理方法と操作方法、それらを有効活用するための知識を習得して、現代社会に適応していく能力を身につける。					
到達目標	①Wordを使ってレポートやポスターが作成できる。 ②Excelを使って集計表が作成できる。 ③PowerPointを使ってスライドが作成できる。 ④情報化社会でのモラルや責任について、自己の考え方を説明できる。					
テキスト・ 参考図書等	30時間アカデミック 情報リテラシー Office2016 Windows 10対応					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	・各試験の平均点50% ・提出物50%			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	50%				
	その他	%				
履修上の 留意事項	①授業はPC室で行うので時間までに着席していること。②説明と実習(実習がメイン)③テキストは1年時のものを使用する。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	コンピューターとインターネット(序章)	ネット社会でのトラブル、回避するために			
	2	文書化の応用(第2章 付録)	ビジネス文書の基礎知識			
	3	文書化の応用(第2章7)	長文作成をサポートする			
	4	文書化の応用(プリント)	住所録作成、差し込み印刷、はがき印刷			
	5	文書化の応用(プリント)	名刺作成、宛名ラベル作成			
	6	文書化の応用(プリント)	ポスター作製、			
	7	表計算ソフトの活用(第3章5)	いろいろな数式(絶対参照、いろいろな関数)			
	8	表計算ソフトの活用(第3章7)	データベースの利用(並べ替え、データの抽出)			
	9	表計算ソフトの活用(第3章8)	ExcelのデータをWord文書に貼り付ける			
	10	表計算ソフトの活用(プリント)	ピボットテーブル			
	11	表計算ソフトの活用(プリント)	さまざまな集計表			
	12	表計算ソフトの活用(プリント)	さまざまな集計表			
	13	プレゼンテーションソフトの活用(第4章7)	スライドショーをサポートする機能			
	14	プレゼンテーションソフトの活用(第4章 付録)	プレゼンテーションの基礎技能			
15	まとめ	総合演習、情報モラル				

授業科目 (科目ID)	解剖学実習 23p202		担当教員 (実務経験)	飯島 治之 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 医学博士を有し解剖学講師として10年以上従事	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	・理学療法の基礎になる骨・筋を主に各種臓器を模型等を観察し実習を行う。さらに解剖された人体観察を通して、その構造と各器官の連関を理解する。				
到達目標	・骨や筋をはじめとする人体臓器の構造、名称や位置および構造について説明することができる。				
テキスト・参考図書等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	小テスト、後期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	50%			
	提出物	0%			
	その他	%			
履修上の留意事項	必ず予習・復習すること。1年次に学んだ内容が基礎となるため自ら能動的に調べることを通して主体的に学習すること。講義後の確認テストは必ず見直しを行い理解すること。 解剖実習見学では、敬意を持ち医学を学ぶ学生として積極的に学習に取り組むこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習		
	2	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習		
	3	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習		
	4	骨学実習	オリエンテーション・骨の名称や位置・構造について学習		
	5	筋学実習(上肢・下肢・体幹)	筋の名称や位置・構造について学習		
	6	筋学実習(上肢・下肢・体幹)	筋の名称や位置・構造について学習		
	7	筋学実習(上肢・下肢・体幹)	筋の名称や位置・構造について学習		
	8	筋学実習(上肢・下肢・体幹)	筋の名称や位置・構造について学習		
	9	靭帯学実習	靭帯の名称や位置・構造について学習		
	10	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習		
	11	脳・脊髄	脳・脊髄の名称や位置・構造について学習		
	12	神経系	神経の名称や位置・構造について学習		
	13	心臓・肺・その他臓器	心臓・肺・肝臓・腎臓・胃・腸など主な臓器の名称や位置・構造について学習		
	14	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習		
15	各臓器、器官のつながり	1～14回で学んだ位置や構造の関係性について学習			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	各臓器、器官のつながり	1～13回で学んだ位置や構造の関係性について学習
	17	解剖学実習見学のオリエンテーション	人体解剖学実習見学にあたってのオリエンテーション
	18	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	19	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	20	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	21	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	22	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)
	23	解剖実習見学	解剖された人体を観察し、構造と各器官の関係性について理解する、(スケジュールの詳細は授業開始時に配付予定)

授業科目 (科目ID)	運動学実習		担当教員 (実務経験)	横野 裕行 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内・外の病院で理学療法士として8年勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	理学療法士、作業療法士にとって運動時の身体の現象を捉え理解することは非常に重要である。本科目では、実習を通して観察・測定・分析の各段階を体験し、理解を深めることが目的である。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体運動によって生じる諸現象の基本的事項について説明できる。 ・実習結果をまとめ、結果が生じた理由・原因について考察することができる。 				
テキスト・参考図書等	基礎運動学(第6版 補訂) 運動学実習 第3版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0%	レポート点100% 詳細については、初回のオリエンテーションで説明する		
	レポート	100%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	レポートはオリエンテーションを参考にして、充実した内容のものを作成すること。探究心を持って取り組むことを勧める。また、レポート提出は期限を厳守すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖(ランドマーク触診)		
	2	オリエンテーション・体表解剖	授業オリエンテーション、レポート課題の書き方、体表解剖(ランドマーク触診)		
	3	実習1	最大化酸素摂取量の推定(心拍数)		
	4	実習1	筋力測定		
	5	実習1	歩行分析		
	6	実習1	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)		
	7	実習2	重心位置推定		
	8	実習2	重心位置推定		
	9	実習2	重心位置推定		
	10	実習2	重心位置推定		
	11	実習3	筋力測定		
	12	実習3	筋力測定		
	13	実習3	筋力測定		
	14	実習3	筋力測定		
15	実習4	歩行分析			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	実習4	歩行分析
	17	実習4	歩行分析
	18	実習4	歩行分析
	19	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
	20	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
	21	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
	22	実習5	嫌気性代謝閾値の推定(呼気ガス)
	23	まとめ、フィードバック	まとめと復習

授業科目 (科目ID)	運動学実習	担当教員 (実務経験)	竹中 謙将 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で10年、老人保健施設で5年、理学療法士として勤務
対象年次・学期	2年・通年	担当教員	武田 祐貴
授業形態	実習	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内脳神経外科病院にて理学療法士として12年間勤務
		担当教員 (実務経験)	元木 純 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として18年間勤務
		担当教員 (実務経験)	吉田 智子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科病院にて理学療法士として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	小野 直也 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内回復期病院で理学療法士として5年勤務
		担当教員 (実務経験)	和田 英峰 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて作業療法士として8年勤務
		担当教員 (実務経験)	池田 保 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として10年勤務
		担当教員 (実務経験)	水尻 恵利伽 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院・介護保険施設にて作業療法士として5年勤務
		担当教員 (実務経験)	山田 里見 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務
		担当教員 (実務経験)	山内 真帆 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院で理学療法士として8年勤務

授業科目 (科目ID)	臨床心理学	担当教員 (実務経験)	久原 奈緒子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内スクールカウンセラーとして10年の実務経験あり		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必須	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	様々な心理療や心理査定、事例を通して精神疾患、発達障害について幅広く学んでいきます。心理療法や心理査定の基本的な知識を修得すること、また精神疾患、発達障害の方々の特徴や特性をふまえた対応方法について身につけられるようにすることを目的とします。				
到達目標	医療現場で最低限必要であろう精神疾患や発達障害の症状や特性、対応方法の理解、心理療法の概要を知り、対象者からの情報収集の方法、また体験を通して自己を理解し、自らのストレスコーピングについても身につけることができることを目標とします。				
テキスト・参考図書等	教科書 よくわかる臨床心理学				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験および提出物にて評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
その他	%				
履修上の留意事項	必ずしも教科書に従って講義を進めるとは限りませんが、事前に一読下さい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	臨床心理学の基礎理論、アサーション	各理論の概要、アサーション体験		
	2	発達障害①	注意欠陥・多動性障害、行為障害、学習障害		
	3	発達障害②	自閉性障害、チック症、精神遅滞、知的障害		
	4	不安と身体関連障害①	気分障害(うつ病・双極性感情障害)、睡眠障害		
	5	不安と身体関連障害②	薬物・アルコール依存症、摂食障害		
	6	不安と身体関連障害③	ストレス関連障害(恐怖症、パニック障害、PTSD、強迫性障害)		
	7	不安と身体関連障害④	人格障害、統合失調症		
	8	アセスメント①	心理検査法(質問紙法、投影法、作業検査法)の概要他		
	9	アセスメント②	初回面接(インテーク面接)の概要他		
	10	心理療法①	支持的精神療法、表現療法		
	11	心理療法②	訓練療法(自律訓練法)、行動療法(系統的脱感作法)		
	12	心理療法③	洞察療法(来談者中心療法)、認知療法		
	13	心理療法④	その他の療法(内観療法)		
	14	心理療法⑤	芸術療法(描画療法、サイコドラマ、音楽療法、コラージュ療法)		
15	心理療法⑥	ソーシャルスキルトレーニング			

授業科目 (科目ID)	一般臨床医学	担当教員 (実務経験)	鬼原 彰 市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間
授業目的	・臨床系科目の中で、内科学、精神医学などカリキュラムに取り入れられている科目以外の領域を学習するものである。 ・多くの臨床系科目が含まれており、要点のみの講義となるので、さらに他の成書を用いて学習を深めることが必要である。				
到達目標	・下記の診療科目に関して、主要な疾患概要の理解を深める				
テキスト・参考図書等	PT・OT・STのための一般臨床医学 第3版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	外科総論	機能的・非機能的損傷、感染性疾患、抹消血行障害、腫瘍、臓器移植		
	2	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション		
	3	脳神経系外科	主な脳神経系疾患とリハビリテーション		
	4	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション		
	5	消化器系外科	主な消化器系疾患とリハビリテーション		
	6	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション		
	7	循環器系外科	主な循環器系疾患とリハビリテーション		
	8	救命救急医療	心肺蘇生法、ショック、呼吸管理、中心静脈栄養、輸血法、救急処置、ICU		
	9	皮膚疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な皮膚疾患、内科系疾患と皮膚病変		
	10	泌尿器科・生殖器疾患	解剖、生理、診断、検査、主な泌尿器科と生殖器疾患		
	11	婦人科産科疾患	解剖、生理、妊娠、分娩、出産、異常妊娠と合併症、女性生殖器疾患		
	12	眼疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な眼疾患		
	13	耳鼻咽喉科疾患	解剖、生理、症状、病態生理、主な耳疾患、鼻疾患、咽頭疾患、喉頭疾患		
	14	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション		
15	老年医学とプライマリケア	老年者医療に必要なプライマリケアとリハビリテーション			

授業科目 (科目ID)	内部障害学		担当教員 (実務経験)	鬼原 彰 市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	・人間の基本的構造とその機能をコントロールする3つのシステムである神経系、内分泌系、免疫系がどのようにして細胞レベル、組織レベル、個体レベルの機能維持とかかわりを有しているかを学び、それをリハビリテーションに応用する。				
到達目標	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、理学療法に応用できる。				
テキスト・参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第3版				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	参考			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	欠席せず、予習復習をすること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	生体学総論(1)	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション		
	2	骨・関節・筋疾患	骨・関節・筋の機能と疾患の診断・治療		
	3	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療		
	4	ニューロンによる細胞性コントロール	脳・神経系機能と疾患の診断・治療		
	5	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療		
	6	ホルモンによる液性コントロール	内分泌の機能と疾患の診断・治療		
	7	免疫(細胞性・液性)によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療		
	8	免疫(細胞性・液性)によるコントロール	免疫の機能とアレルギー・膠原病の診断・治療		
	9	生体学総論(2)	個体・器官・細胞の機能とリハビリテーション		
	10	消化器系疾患	消化器(消化管・肝・胆・膵)の機能と疾患の診断・治療		
	11	消化器系疾患	消化器(消化管・肝・胆・膵)の機能と疾患の診断・治療		
	12	代謝系疾患	代謝疾患の診断・治療		
	13	循環器系疾患	循環器(呼吸器・心血管・腎)の機能と疾患の診断・治療		
	14	循環器系疾患	循環器(呼吸器・心血管・腎)の機能と疾患の診断・治療		
15	血液造血器疾患	血液の機能と疾患の診断・治療			

授業科目 (科目ID)	運動器障害学 23o207		担当教員 (実務経験)	伊藤 雄人 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内整形外科クリニックで整形外科医として勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15	時間数 30時間
授業目的	PT・OTにとって安全で効果的な治療をするために必要不可欠な、疫学・発症メカニズム・代表的な検査・治療法を運動器疾患の総論および各論を通じて学習し理解する。				
到達目標	①総論として、整形外科領域における診断法・治療法・外傷学を学習・理解し、それぞれの要点について説明・記述ができる。 ②各論として、各関節に代表的な運動器疾患の症状・発症メカニズム・検査・治療について説明・記述ができる				
テキスト・参考図書等	標準整形外科学 第14版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	整形外科総論	診断・治療総論		
	2	疾患疾患総論	外傷総論・軟部組織損傷(末梢神経損傷・脱臼・靭帯損傷)		
	3	疾患疾患総論	骨折		
	4	疾患疾患総論	軟部組織・骨・関節の感染症		
	5	疾患疾患総論	四肢循環障害の診察・診断		
	6	疾患疾患総論	代謝性骨疾患・骨腫瘍		
	7	疾患疾患総論	関節リウマチ		
	8	疾患疾患総論	変形性関節症		
	9	疾患各論	足部・足関節疾患		
	10	疾患各論	膝関節疾患		
	11	疾患各論	股関節疾患		
	12	疾患各論	脊椎・胸郭疾患		
	13	疾患各論	上肢疾患①(肩関節疾患)		
	14	疾患各論	上肢疾患②(肘・手関節疾患)		
15	疾患各論	上肢疾患③(上肢のスポーツ障害)			

授業科目 (科目ID)	神経障害学		担当教員 (実務経験)	中村 仁志夫 新潟大学脳研究所で7年間研究の後、北海道大学で神経病理学に携わり、25年以上各養成校で教員として勤務	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		15	時間数 30時間
授業目的	ヒトの精神・身体活動は全身系としての神経系に負うところが大きい。神経系の主要部分は非再生系に属し、傷害された組織の機能(機能障害)を回復、補填するには障害克服の基本戦略に基づく理念(リハビリテーション計画)が重要である。その基軸となるべき神経学を主な疾患の特徴を把握しつつ、毎回の授業後に提示される課題に対する回答の推敲を受けつつ、各自が充実した内容を修得することを目標とする。				
到達目標	1) 脳機能の局在と特性について例示し説明できる。2) 運動神経系と感覚神経系の障害を例示し、説明できる。3) 脳血管障害の病態を説明できる。4) 神経変性疾患を例示し、説明できる。5) 脳腫瘍や神経筋疾患を例示し説明できる。6) 認知症の病態を理解し、その対応を説明できる。				
テキスト・参考図書等	<ul style="list-style-type: none"> ・「病気がみえる」第7巻 脳・神経 第2版(メディックメディア社) ・標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野「神経内科学」第4版(医学書院) ・「医療系学生のための病理学」第4版第19章(講談社) 				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	42%	毎回のカード(小課題の演習と理解内容の確認及び質問と回答)についての添削と評価(70点満点)と定期試験(筆記・50点満点)の成績とを合わせて全体的評価とする。		
	レポート	0%			
	小テスト	0%			
	提出物	58%			
その他	0%				
履修上の留意事項	1) 病理学の本(特に第19章)も常に脇に置くこと。2) 解剖学・生理学の知識を常に復習すること。3) 新聞や雑誌の病気の記事をよく読むこと。4) 主要な医学用語については和名だけではなく、英語名による習得に努めること。5) 毎回のカードは各自の努力によって作成し、友達の手書きしたものを引き写す行為は自尊心を培うために極力避けること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	神経学の歴史における重要人物の把握、医療倫理の基本	聖聖ヒポクラテス、神経学の父シャルコー、脳外科の父クッシング、変性性認知症の父アルツハイマー、遺伝性舞踏病の発見者ハンチントン、看護の母ナイチンゲール、教育者オスラー、X線の父レントゲン、錐体外路系の提唱者平澤興らの業績を知ることにより、医療人存在の理念を学ぶ		
	2	神経解剖学(1)	脳幹の範囲、脳機能の局在、優位半球と劣位半球、日本人の脳、錐体路		
	3	神経解剖学(2)	錐体外路系、感覚路、脳血管系の解剖、髄液循環、血液脳関門		
	4	神経解剖学(3)	自律神経系、脊髄の解剖、脳神経症状の見方		
	5	神経学的診断法	運動調節・感覚の検査、腱反射など、画像検査の種類と対象となる疾患		
	6	神経学的検査法	CTとMRI、脳波、髄液検査などの基本的知識と応用(てんかんを含む)		
	7	意識障害・運動麻痺	意識障害の分類、脳死の定義、運動麻痺と錐体路のレベル		
	8	錐体路と錐体外路系	随意運動と不随意運動、運動ニューロン病(ALSほか)、パーキンソン症候群		
	9	運動失調について	ハンチントン病、脊髄小脳変性症など(多系統萎縮症を含む)の症候と分類		
	10	失語症と認知症	失語症の分類、認知症の分類と対策、アルツハイマー病など		
	11	脳血管障害	脳梗塞(脳血栓と脳塞栓)、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤など		
	12	脳腫瘍	グリオーマと非グリオーマ(髄膜腫ほか)、母斑症		
	13	神経難病(1)脱髄疾患など	多発性硬化症、副腎白質ジストロフィー、脊髄空洞症、先天性代謝異常		
	14	神経難病(2)神経筋疾患など	筋ジストロフィー症、重症筋無力症、栄養障害、ミトコンドリア脳筋症など		
15	プリオン病ほか、まとめ	ヤコブ病とBSE、臨床神経学の今後の課題			

授業科目 (科目ID)	精神障害学		担当教員 (実務経験)	鶴飼 渉 市内医科大学にて大学教員、精神科医として15年以上勤務 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)		15	時間数 30時間
授業目的	各種精神疾患の基本症状と治療法について、最新知見を織り交ぜながら講義する。リハビリテーションにおける患者の理解に必要な基礎知識を学ぶ。				
到達目標	各種精神疾患の基本症状と治療法について理解する。				
テキスト・ 参考図書等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版 参考図書:新精神医学				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	生物学的視点、心理学的視点、そして社会的視点から精神疾患や精神障害を学ぶ。精神医学の知識を持たずして作業療法の治療実践は成り立ちません。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル		
	2	精神医学総論、成因・分類、生物学的精神医学	精神医学とは、概念、歴史、3つの成因について、ストレス脆弱性モデル		
	3	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション		
	4	気分障害、人格障害、感情障害の生物学	人格とは、行動の障害、性の障害、気分障害の概念、うつ病、操うつ病、持続性気分障害、経過及び予後、治療と援助、リハビリテーション		
	5	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション		
	6	統合失調症	成因、疫学、症状の捉え方、診断、経過と予後、社会生活面での障害、治療とリハビリテーション		
	7	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患		
	8	神経性障害、心身症	神経症の捉え方、恐怖及び不安を中心とするもの強迫を中心とするもの、ストレス関連障害、解離・転換を中心とするもの、身体表現性、その他、定義と概要、心身症としての諸疾患		
	9	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ		
	10	アルコール依存症、薬物依存症	診断と治療飲酒による酩酊と乱用、アルコール依存症候群、アルコール依存症を基盤に生じる精神障害、アルコール依存症の子供の問題、地域ネットワーク、家族の問題、睡眠薬・抗不安薬、有機溶剤・覚せい剤・大麻・モルヒネ・コカイン関連、地域ネットワークとチームアプローチ		
	11	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション		
	12	児童・青年期障害、発達障害	精神・心理発達の特性、行動及び情緒障害、その他の精神障害、心理的発達の障害とは、特異的発達障害、広汎性発達障害、治療とリハビリテーション		
	13	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際		
	14	心理検査、心理療法、メンタルヘルス	知能検査、人格検査、精神作業能力検査、神経心理学検査、各種心理療法とその実際		
15	老年期精神医学	心理社会的特性、初老期・老年期の精神障害、リエゾン精神医学とは、リエゾン精神医学が必要となる精神疾患・症状、精神的・心理的問題、精神障害と刑法、民法、精神鑑定、精神の病と社会の関係、学校・職場・家庭のメンタルヘルス			

授業科目 (科目ID)	発達障害学		担当教員 (実務経験)	佐々木智教 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内小児施設にて理学療法士として10年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	8	時間数	15時間
授業目的	「子どもは小さな大人ではない。」子どものからだの特徴、子ども特有の疾患・病態について学ぶ。また、近年その重要性が増している障害児の問題、障害児に対する医療の提供体制について重点的に学ぶ。					
到達目標	子ども特有の疾患・病態について理解する。					
テキスト・参考図書等	言語聴覚士のための基礎知識、小児科学・発達障害学 第2版 未定					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価する。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	医療を志す者としての自覚を持ち、学習意欲を持って臨むこと。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	オリエンテーション、小児科学概論	小児科学とは、小児科学を取り巻く環境の変化。小児医療における理学療法士・作業療法士の役割。			
	2	胎児・周産期、新生児・乳児健診	胎芽病と胎児病、子宮内発育不全、周産期障害など。出生から退院まで。乳児の発達。乳児健診			
	3	遺伝疾患・先天異常、神経疾患・てんかん	遺伝性疾患、染色体異常、奇形、先天異常。神経・筋疾患、てんかん、水頭症、中枢神経奇形、頭部外傷			
	4	その他の疾患	循環器、呼吸器、消化器、代謝、内分泌、感染症、免疫、アレルギー、泌尿器、脳腫瘍			
	5	小児の発達と成長、運動・知的・発達障害	発達の概念。健全な発達。小児の成長。運動発達障害、知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥多動性障害(ADHD)			
	6	重症心身障害	重症心身障害の特徴、側湾、姿勢異常、筋緊張亢進、摂食・嚥下の異常、呼吸障害、気管切開・咽頭気管分離。			
	7	医療的ケア	在宅で医療的ケアを必要とする小児と家族の支援、訪問看護と訪問リハの連携、発達支援としての外来リハ。			
	8	小児の在宅医療	小児の在宅医療における理学療法士・作業療法士の役割と期待するもの。			
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	基礎作業学実習Ⅱ		担当教員	山田 里見	
			(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	道内病院において作業療法士として6年勤務
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	23	時間数 45時間
授業目的	作業分析を通じて、作業と人間・環境との関係を捉えることができる。				
到達目標	作業体験を通じて、作業・材料・道具の特性を知る。作業実施の中で、リスク管理や治療目的などを捉えることができる。作業分析を実施する中で、適応修正や段階付け・指導方法について考察することができる。				
テキスト・参考図書等	作業療法学ゴールドマスターテキスト 作業学、ひとと作業・作業活動				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	提出物点とは、作品点と作業分析表・作業計画・振り返り表などの提出課題点の合計である。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	100%			
	その他(出席点)	%			
履修上の留意事項	工程の長い体験を通じて作業分析表を作成する。プロジェクト学習体験も行う。作業特性に気付く体験を積むことを意識してほしい。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	授業オリエンテーション、家事動作(1)	授業オリエンテーション・家事動作概要		
	2	家事動作(2)	家事動作に必要な能力について？フローチャート分析		
	3	合同レク	4年生企画合同レク レクレーション場面の作業分析		
	4	合同レク	4年生企画合同レク レクレーション場面の作業分析		
	5	家事動作(3)	家事動作手順・分析項目の共有		
	6	家事動作(4)	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り 予想との比較		
	7	家事動作(4)	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り 予想との比較		
	8	家事動作(4)	家事動作を実体験し分析および体験後の振り返り 予想との比較		
	9	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
	10	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
	11	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
	12	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
	13	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
	14	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成		
15	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ベントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	革細工	基本的工程と技法、用具素材の特性・治療的応用、ペントレイ・キーケースづくり 作業分析表作成
	17	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	18	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	19	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	20	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	21	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	22	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験
	23	陶芸	基本的工程と技法 用具素材の特性、治療的応用、茶碗[たまづくり]・皿・花瓶 [板づくり]、マグカップ[ひも作り] ろくろ作り体験

授業科目 (科目ID)	作業療法評価法Ⅱ		担当教員 (実務経験)	山田 里見 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて作業療法士として6年勤務	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 3単位
授業形態	講義・演習		授業回数(1回90分)	45	時間数 90時間
授業目的	1年次の作業療法評価法Ⅰに引き続き、対象者理解および治療的介入に不可欠である「評価」に対する理解をさらに深める。また主に身体障がい領域における、基本的な評価手技の目的を学び、評価技術を習得し、評価実習での実践が可能となる。また、対象者評価から目標設定までの流れをペーパー上の症例を用いて体験する。評価計画書の作成、評価結果のまとめ、ICF分類、目標設定とそこに至る思考過程を表出する練習を行う。				
到達目標	各種評価を行う意味を答えることができる。各種評価技術を実践できるようになる。評価実習に向けて、精神・身体障がい分野における、情報収集方法、評価のまとめ方、ICF分類と作業療法目標設定が可能となる。				
テキスト・参考図書等	標準作業療法学 作業療法評価学、神経診察クローズアップ 正しい病巣診断のコツ、病気がみえるvol.7 脳・神経、 統合失調症うつ病の作業療法の進め方 (参)				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験(前期・後期) 実技試験(ROM-T)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	2年次学年末の「評価実習」につながるものとなるよう、理解と習得に努めてください。実技試験も随時実施していきますので、各自合格水準に達するよう授業時間以外の実技練習を行ってください。自主的・積極的な取り組みを望みます。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	関節可動域測定①	関節可動域測定の意味と目的を理解する		
	2	関節可動域測定②	上肢ROM測定技術を習得する		
	3	関節可動域測定③	上肢ROM測定技術を習得する		
	4	関節可動域測定④	上肢ROM測定技術を習得する		
	5	関節可動域測定⑤	上肢ROM測定技術を習得する		
	6	関節可動域測定⑥	上肢ROM測定技術を習得する		
	7	関節可動域測定⑦	下肢ROM測定技術を習得する		
	8	関節可動域測定⑧	下肢ROM測定技術を習得する		
	9	関節可動域測定⑨	下肢ROM測定技術を習得する		
	10	関節可動域測定⑩	下肢ROM測定技術を習得する		
	11	関節可動域測定⑪	下肢ROM測定技術を習得する		
	12	関節可動域測定⑫	頸部・体幹のROM測定技術を習得する		
	13	関節可動域測定⑬	頸部・体幹のROM測定技術を習得する		
	14	関節可動域測定⑭	頸部・体幹のROM測定技術を習得する		
15	関節可動域測定⑮	実技試験に向けたポイント確認 対象者の実践的測定場面での留意点			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	感覚検査①	感覚検査の概要を知り、感覚検査の意味と目的を理解する。
	17	感覚検査②	表在感覚検査方法を習得する
	18	感覚検査③	表在感覚検査方法を習得する
	19	感覚検査④	深部感覚検査を習得する 特殊感覚検査方法を習得する
	20	腱反射・病的反射①	腱反射や病的反射が生じる仕組みを知り、それらの徴候の意味を理解する。
	21	腱反射・病的反射②	腱反射検査方法を習得する。
	22	腱反射・病的反射③	腱反射検査方法を習得する。
	23	腱反射・病的反射④	病的反射検査方法を習得する。
	24	片麻痺機能検査①	連合反応、共同運動の知識を基に、片麻痺機能検査の意味と目的を理解する。
	25	片麻痺機能検査②	片麻痺機能検査(上肢)の検査手順を習得する。
	26	片麻痺機能検査③	片麻痺機能検査(上肢)の検査手順を習得する。
	27	片麻痺機能検査④	片麻痺機能検査(上肢)の検査手順を習得する。
	28	片麻痺機能検査⑤	片麻痺機能検査(下肢)の検査手順を習得する。
	29	片麻痺機能検査⑥	片麻痺機能検査(下肢)の検査手順を習得する。
	30	片麻痺機能検査⑦	片麻痺機能検査(下肢)の検査手順を習得する。
	31	片麻痺機能検査⑧	上下肢を統合した実践的検査手順を習得する。
	32	筋緊張検査①	筋緊張への理解を深め、姿勢・運動との関連性を知る。
	33	筋緊張検査②	筋緊張検査方法を習得する
	34	バランス評価①	バランス機能を構成する基本的機能を知り、行為へのバランス機能の影響を理解する。
	35	バランス評価②	バランス機能検査を習得する。
	36	脳神経検査①	脳神経検査の概要を知り、脳神経検査の意味と目的を理解する。
	37	脳神経検査②	脳神経検査方法を習得する。
	38	症例検討 精神障がい分野①	症例を用いて、一般情報・医学的情報からの評価計画作成
	39	症例検討 精神障がい分野②	初期評価情報から、評価のまとめ、全体像の把握、ICFぶるいを作成
	40	症例検討 精神障がい分野③	問題点抽出と目標設定、その考察を行う
	41	症例検討 精神障がい分野④	精神障がい分野の症例検討のまとめ
	42	症例検討 身体障がい分野①	症例を用いて、一般情報・医学的情報からの評価計画作成
	43	症例検討 身体障がい分野②	初期評価情報から、評価のまとめ、全体像の把握、ICFぶるいを作成
	44	症例検討 身体障がい分野③	問題点抽出と目標設定、その考察を行う
45	症例検討 身体障がい分野④	身体障がい分野の症例検討のまとめ	

